



湯口中学校2年生が「多田等観」について学習

7月9日に、湯口中学校2年生は出前授業を利用し、多田等観について学習をしました。生徒は、小学校6年生の時に多田等観について学習をしていましたが、今回学び直しを行い、さらに学習を深めていくことにしたそうです。出前授業が終わった後、生徒は円万寺観音堂の一燈庵へ歩いて移動し、観音山を守る会会長の小山田さんのお話を聞くことになっているということでした。



花巻市博物館の学芸員が、等観がチベットから持ち帰った五鈷杵を手に持って説明をしているところです。



等観が持ち帰った五鈷杵

五鈷杵とは

古代インドの武器にその起源を持つもので、心中の煩惱（ぼんのう）を打ち碎き、仏性（ぶっしょう）を顕現（けんげん）させることを象徴する意味で用いられる仏具です。把（は）の両端の鈷（こ）の数によって独鈷杵（どっこしよ）、三鈷杵、九鈷杵などがあります。托鉢の際に携帯する物のひとつです。



集中して、熱心に学芸員の解説を聞いている湯口中学校の生徒。

授業時間に少しゆとりがあったので、急遽質問をとったところ、次の質問等が出されました。急に質問がないかどうか聞いたにもかかわらずすぐ質問が出され、普段から授業等で鍛えられていると感じさせられました。

- ・チベットから資料はどうやって運んだか。
- ・日本に帰るときどうやって帰ってきたのか。
- ・「トウプテン・ゲンツェン」の名前はどのような意味か。
- ・持ち帰った資料の総額はいくらぐらいになるのか。



今回の出前授業で使用した五鈷杵以外の実物資料

左：佛舍利塔
上：備忘板（サムタ）

矢沢小学校6年生は出前授業「縄文時代の暮らし」を利用

7月7日には、矢沢小学校6年生が出前授業を利用しました。矢沢小学校は、久田野Ⅰ遺跡の上に建っています。また、近辺には久田野Ⅱ遺跡や上台Ⅰ遺跡があります。出前授業の前半は、スライドを使い解説の中でそれらの遺跡についても触れながら、縄文時代の暮らしについて質問を交えながら進められました。



矢沢小学校周辺の遺跡を表しているスライド

一昨年度にも、矢沢小学校6年生にこの出前授業を利用していただきました。その際は、2学級を一緒にして授業を行いました。今回は密集を避けるために、1学級ずつ授業を行いました。



学芸員の質問に対して手を上げているところ

授業の後半は、一つの学級を2つのグループに分けて、縄文時代の土器や石器を観察しました。



手で触って土器片や石器を観察しているグループ

授業の最後に質問や感想を聞いてみたところ、次のような質問や感想が出されました。

質問の一部

- ・縄文土器にはどうして模様がついているのですか。
- ・矢沢小学校のどれくらい下に遺跡がありますか。
- ・弥生時代の偉い人は古墳という墓に眠っていたけど、縄文時代は古墳がなくて、そのまま葬られたのですか。

感想の一部

- ・縄文時代の人たちは、みんな知恵を出し合ってお互いに協力して生活しているのが分かった。縄文時代についてもっと知りたいと思いました。
- ・教科書に書いてあることよりくわしく知ることができてよかったです。